

1. 職名・氏名 准教授 新宮 晋2. 学位 学位 修士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1986年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
マクロ経済学I（2単位）	1年生
② 内容・ねらい	
ミクロ経済学とともに経済学の基礎理論の一つとして、その後の経済学学修のベースになる理論の概念や論理を理解させ、経済学のコミュニティーに誘うことをねらいとする。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	
学習時間が成果に結びつくことを学生に実感させたい。そのため、経済学的な考え方を易しいモデルで説明するとともに、テキストを指定しそれに沿うことで学習の便宜を図る。また、練習問題を予習課題として講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にするとともに、理解の助けになるよう、事後に練習問題の解答会を行った。さらに遠隔授業への習熟に伴い、講義の録画やペンタブレット板書のファイル化したものをGCにアップして復習の便宜を図った。	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
マクロ経済学II（2単位）	1年生
② 内容・ねらい	
マクロ経済学Iから引き続き経済学の基礎理論を解説。IS/LM分析、AD/AS分析など、マクロ的分析の全体像を明確に提示することをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	
かなり平易なテキストを参考書に指定し、練習問題での演習を使いながら、モデル分析への習熟を促すよう誘導。その際、時事の政策問題に言及しながらモデル分析の意味を理解させる。また、マクロ経済学Iと同様練習問題を予習と位置づけることで講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にする。前期同様、今期も解答会を正規授業に組み込み、この科目で何を理解すべきと要求しているのかを明確にした。さらに遠隔授業への習熟に伴い、講義の録画やペンタブレット板書のファイル化したものをGCにアップして復習の便宜を図った。	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
政治経済学（2単位）	2年生以上
② 内容・ねらい	
主流派のマクロ経済学やミクロ経済学の根底にある考え方を示すとともに、それらを支えている社会哲学的基盤を理解させること、近代思想史や政治哲学など経済学を取り巻く諸分野に言及することで、経済及び社会についての考え方は一様ではないことを理解させることをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	
経済学はあまたある社会現象の一つを解明する、重要ではあるが自己完結し得ない学問分野であることを理解させるため、できるだけ周辺領域に言及し、それらとの関連の中に経済学を位置づける。その目的を達するため、社会学や社会哲学、ヨーロッパ近代史についての基礎的な概要を紹介している。また政治哲学が提起する批判に経済学はどこまで応えうるのかについても、重要なトピックの一つとして採り上げた。なおこの講義については、受講生との直接的やりとりや教材の多様な展開を意図して、敢えて対面のみとした。	

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ (2単位) 2年生</p>
<p>② 内容・ねらい 受講生の了解のもと、今回はテキストを複数提示して選択させ、それらの輪読を丁寧に行うことで3年生からの専門書講読の準備になることを第一の狙いとした。と同時に、主としては担当科目「政治経済学」との連携を考え、経済学の周辺領域と重なる部分に着目した内容にすることで、社会的な課題についての考え方が多様であると同時に経済学が孤立した領域でないことを実感させることをめざした。論点の多くは、具体的な労働経済学上の課題、特に制度上の課題がどのような歴史的経緯を経て今日のように立ち現れるに至ったかを理解させることで、歴史的な枠組みや履歴効果の持つ意味について考えさせることを重視した。こうしたルーティンの合間に、サブテーマとしてマクロやミクロの個々の理論の様々な論点について質問への応答という形で授業を進めた。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 レジュメの作成にあたり、事前準備のためにオフィス・アワーを利用し、担当者と差し向かいで中身を詰めることで、何よりもレジュメの書き方の基本を示すと同時に、授業での論点の中心をどこに置くかを発表者納得の上で確定し、授業での議論の密度を上げるよう工夫した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読I (2単位) 2年生 (両学科)</p>
<p>② 内容・ねらい 主に政治哲学の英文を読む。標準的な経済学が前提にしている道徳的基盤に対する疑問が率直に提示されているものである。自分が担当する政治経済学の授業との連携を意識しつつ、経済学を支える道徳哲学についての理解を、英語文献を読むことで深めることを狙う。また、英文についての立ち入った説明はおもに読解技術に限り、理解と翻訳の結びつきが重要であることを気づかせることも重要なねらいである。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 通常外書講読では、英文翻訳と中身についての理解を並行して行うが、本講義で事前にテキストの内容に関わる論点の理解を、一定の時間をかけて日本語でおこなう。そのさい、内容に立ち入った議論になれることをめざし、討論の機会も設けている。特にすでに学修した経済理論についての異なる切り口からの説明を丁寧に行い、テキストの内容との連携を図った。これらによって英文の理解はかなり容易になるようで、普段よりも短時間で大量の英文を読ませることができた。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習I (4単位) 3年生</p>
<p>② 内容・ねらい 前期前半は専門書についてのきちんとした読み込みの経験を一通りさせることで、資料・データ・先行研究・文献利用の方法について学ばせる。この知見をもとに研究に値するテーマとはどのようなものかを理解させ、実際に様々に提案されるテーマの研究適合性を吟味することに前期の後半が当てられる。こうしたプロセスを経て、今年度は前期から練り上げたテーマの中から後期で実際に取り組むものを選択させ、これにもとづいて経済学や周辺領域についての知識を使いながら論理的説得的に思考できる訓練をすることをねらいとした。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 まずは労働問題を経済学と法学、制度論に跨がって理解させるために、テキストに濱口桂一郎『ジョブ型社会とは何か』を採りあげた。研究テーマの確定については、仮想の研究発表に向けて各自でテーマを提示させる。きわめて稚拙な当初のテーマをみんなで練り上げることで、研究に値するテーマとはどのようなものか、また研究の基本的な作法にかなうテーマはどのようなものか、実体験させる。その上で、全員で練り上げてきたテーマの中から、グループ研究に相応しいものを選び、本格的に研究作業に入らせた。最終的な発表機会は学内のゼミナール・コンテストで、グループ・マネージメントやプレゼンテーション技能の向上を図るよう配慮した。テーマの選定から結果に至るまで力量以上の負荷を課すことで、理解が表現の前提であることを学ばせる。そのための装置としてコンテスト形式での研究発表は非常に有益であ</p>

り、学生達もそれによく応えた実感した。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習II (4単位) 4年生
② 内容・ねらい 前期は、専門論文や総合誌記事などを使いつつ、適宜時事問題についての情報収集を織り交ぜる。後期は各自がテーマを提示してそれらを受講生で毎回共有・議論し、それらを経済学的に考えるとはどういうことかを確認することを狙いとした。
③ 講義義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期は読み切り論文を事前提示することで、また後期は多様な論点からなる個別テーマを議論の素材としつつ、経済学やその周辺領域についての4年間の学修を総括するよう誘導した。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 特別企画講座A「ケーススタディで学ぶ労働組合」(2単位) 2年生以上
② 内容・ねらい 連合による寄付講座。採り上げるテーマは、雇用劣化(失業・非正規雇用の拡大・低賃金・労働条件の悪化)の現状と課題、従業員の権利と義務の実際、そこで果たすべき労働組合の役割などで、制度面・法制面等多面的に展開。多様な講師陣によるオムニバス講義で、キャリア教育とは異なる実社会への誘いをねらいとしている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 現場の具体的事例から説き起こす「ケーススタディ」として講義内容を構成し直し、抽象論のレベルで重複することがないようにした。講師陣も地元の現場関係者を多くした。授業時間90分を講義60分と質疑応答の30分に分け、毎回の講義についての疑問と感想を出席者に書かせ、これに次回の授業で応えるという形で遂行。寄付講座とはいえ内容については先方と立ち立った議論を重ね、大学での講義に相応しい内容となるよう工夫した。
(3)その他の教育活動 SMAP世話人会運営(3人共同) SMAPインターゼミナールコンテスト運営(複数名共同開催)

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
② 論文「女性のキャリアとその課題についての考察～「福井モデル」のその先へ～」(『地域公共政策』2022年3月)
③ 著書
④ 学会報告等
⑤ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など 地域公共政策学会専務理事
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

--

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井地方最低賃金審議会委員（2008年～2015年、2017年～現在に至る） 福井地方最低賃金審議会会長（2017年～現在に至る） 福井特定最低賃金専門部会委員（2008年～2015年、2017年～現在に至る） 福井市中央卸売市場運営協議会会長（2020年～現在に至る） 福井市中央卸売市場取引委員会委員(2010年～現在に至る)
② 地方公共団体等の調査受託等
③ （公益性の強い）NPO・NGO法人への参加
④ （兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 未来協働プラットフォームふくい第2回実行部門会議4（県内企業等への就職）メンバー
その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 ・「経済学・経営学はおもしろい！」（4人共同開催） ・福井商業高校開放講義
② その他 「プロジェクトM」世話人会運営（4人共同、2021年～現在に至る）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

## 6. 大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
キャリアセンター長（2021年4月～）
(2)委員会・チーム活動
教学IR部会部会長（2019年4月～） 教学IR部会作業部会メンバー（2022年4月～） 学生支援委員会副委員長（2021年4月～） 部局長会議（2021年4月～オブザーバー） 教育研究委員会（2021年4月～オブザーバー） 教員公募選考委員（キャリアセンター、経済学部） 1年生相談担当教員 大学院案内パンフレットWGメンバー
(3)学内行事への参加
入試説明会（羽水高校）
(4)その他、自発的活動など